



中国5県共同研究
成果報告会を開催



大人気だった！
レンタル放牧牛



県オリジナルエノキタケ品種
「黄雲」本格販売開始！



写真で振り返る 令和元年



豚コレラの感染防止対策に
気を遣った亥年でした



期待の早生樹「センダン」
直材をつくる「芽かき」研修を実施



大径材の活用に向けた
太角製材乾燥試験を実施



全国植樹祭のPRのため
記念植樹イベントを実施



テレビ番組「暮らしを支える！～中山間地域研究センター～」10月21日(月)放送
TSKの県政情報番組「なるほど! 吉田くんのしまねゼミ」で当センターの取り組みを紹介しました。ネット検索すると、過去のゼミを見ることができますので、ぜひご覧ください。

WEBで検索

EVENT 県民の森 スノーシューで残雪の森を歩こう



令和2年2月22日(土) 9:30～15:00

集合 県民の森木工室(飯南町小田) 9:30

参加費 500円

申込先 島根県立ふるさと森林公園
学習展示館
電話 0852-66-3586

※申込締切 2月20日(木)
※スノーシューの貸出あり。
詳しくは県民の森HPをご覧ください。



【写真:アカネズミ】

チュウサンカンプレスを
今年もよろしく!



特集

『田舎暮らし設計』で移住後の生活を シミュレーションしてみよう! 【地域研究科】

スマート畜産を進めます! 【資源環境科】

『田舎暮らし設計』で移住後の生活をシミュレーションしてみよう！

あなたのご家庭の5年・10年・20年後の生活はどうなる？

島根県内の中山間地域には、毎年数多くの方が移住（Uターン）しています。また、都市部には将来、田舎への移住を考えている方も多くみられます。しかし、田舎で暮らした経験のない方が、移住後の生活を予想するのは簡単なことではありません。

センターでは、田舎暮らしを求めている方の移住後の生活費を設計（シミュレーション）できるソフト『田舎暮らし設計』を開発しました。このソフトは、田舎で暮らす、または暮らしたいと考えている世帯の収入イメージや家族構成（予定を含む）に基づき、今後5・10・20年間にかかる生活費や教育費などのシミュレーションを行うことができます。

こんなお悩み
ありませんか？

個人・ご家族

- 田舎暮らしにはどのくらいお金がかかる？
- 農業を始めたいけど、どのくらいの貯蓄が必要？本当に暮らしていけるだろうか…
- 子育て、どのくらい費用がかかる？
- 夢や計画の実現に向け、今の家計で大丈夫かな？

自治体・団体など

- 定住支援をもっとすすめたい！

田舎暮らしの家計設計支援ソフト

『田舎暮らし設計』を使った 相談会等を開催

将来の家計の見通しをたてる
お手伝いを
しています。



- 1 ご家族構成や将来の収入、生活費や教育費のイメージを伺いながら、ソフトを使って家計のシミュレーションをオペレーター（当センター職員）と一緒に進めます。



結果は
グラフで
表示！



- 2 最初のシミュレーション結果を見ながら、収支のバランスが取れる収入や支出の内容を一緒に確認していきます。

ソフトは実際の
家計データ等を
基に構築！



生活設計に合わせ、収支の
バランスをとりやすい、生活
費等の設計書をお渡しします

望んでいるライフスタイルの実現には、
まず、できるだけ具体的な家計の見通し
を立てる事が大切！！

こんな場所で
活用されています！

Uターン・ターン
フェアの様子→



●しまねUターン・ターンフェア

広島・大阪・東京で開催されたUターン・ターンフェアで『田舎暮らし設計』ソフトを活用して、島根県への移住を考えている方向けの相談会を実施しました。定年後のUターンの希望している方から若者世代まで、幅広い立場の方から相談がありました。

●田舎暮らしの家計を設計してみよう体験会

島根県に既に移住されている方や子育て世帯等を対象とした、島根在住の方向けの体験会を今年度から実施しています。

WEB
版

はじめました！

「田舎暮らし設計（体験版）」のホームページを今年度開設しました。ここでは「田舎暮らし設計」簡易版を使い、生活費や教育費の将来予測を体験していただけます。

田舎暮らし設計 検索

<https://inaka-kurashikata.jp/>

詳しくは上記のHP
をご覧ください。

【関連調査】調査協力者募集中！（謝金あり）

■地域版家計調査（調査期間）
12ヶ月間（最長）

■働き方と家族の時間調査 1回のみ
アンケート調査

スマート畜産を進めます！

畜産が抱えている課題には、経営者の高齢化、担い手不足、生産コストの低減、生産性の向上等があります。

これら課題を解決するために、島根県でもICTによるスマート畜産の振興に取り組んでおり、発情発見システムや放牧時の脱柵監視システム等の研究開発を行っています。

これらの取組を更に進めるため、来年度よりドローンの活用による放牧牛管理の効率化を目指した研究を進めます。

ドローンによる放牧牛の行動管理

放牧場内での放牧牛を管理するには、通常1日3回程度の見回りが必要となります。見回りにかかる労働時間が非常に多くなることで、生産コストも増大しています。そこで、ドローンで放牧場内を撮影することにより、放牧牛の行動を把握し、労働力の削減を目指します。

ドローンにより放牧場内を撮影



PC / スマートフォン / タブレットから確認



パソコン上で
放牧牛の状態を
確認



耳標に
ICタグ装着

ドローンの利用により、見回りに係る労働力が2/3程度削減されることが期待できる他、放牧牛にICタグを装着することで、放牧牛の発情発見や状態（休んでいるか、病気になっていないか、けがをしていないか）等を確認することが可能となります。今後この点についても、研究していきます。